

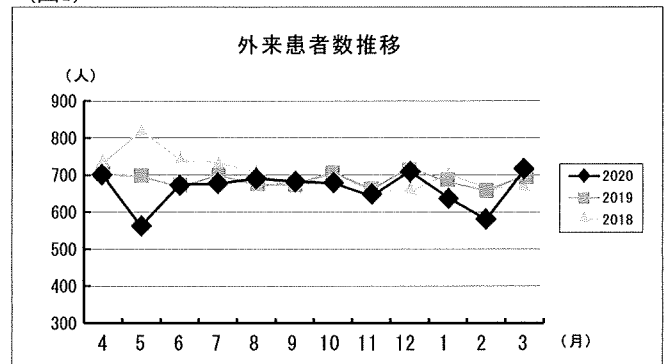
整形外科で提唱している「ロコモティブシンドローム（略してロコモ）」の原因には、生活習慣病や運動不足、加齢による筋肉の衰え（サルコペニア）やフレイルが基盤にあり、腰痛・膝痛・転倒・骨折が組み合わさり生活機能を悪化させる。

特に重要な疾患は変形性膝関節症（膝OA）と骨粗鬆症、それに関連する脊椎・大腿骨近位部骨折である。骨密度や体組成の計測、MRIによる画像診断を組み合わせて、膝痛・腰痛・慢性痛・神経障害性疼痛などの痛みの治療やりハビリ、骨粗鬆症の薬物治療に取り組んでいる。当科の成績は、所属学会の整形外科関連学会、日本骨粗鬆症学会、フレイル学会等で発表・報告を行っている。

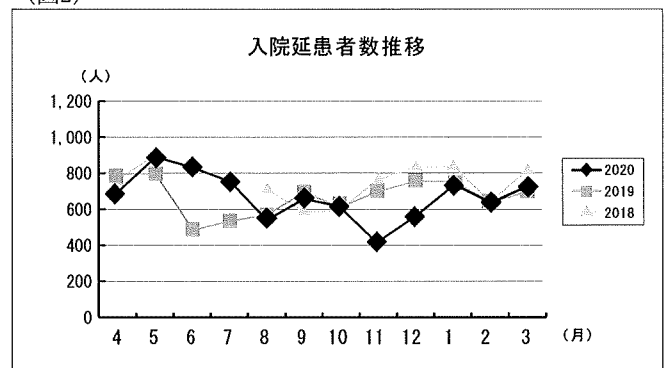
2020年度も整形外科は常勤医師1名で診療を行った。当科では週3回の外来を行っており、外来の延患者数は7,994名（図1）、入院延患者数は8,119名であった（図2）。入院患者の主な疾患は大腿骨骨折・胸腰椎圧迫骨折が例年同様多数を占めており、前年度とほぼ変わらない状況であった。

次年度も三角・大矢野地域で唯一の整形外科として、健康長寿を目標に地域医療に貢献できるよう引き続き取り組んでいく。

(図1)



(図2)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観血的骨接合術	6	3	5	1	3	2	3	1	5	4	5	4	42
四肢切断術					1							1	2
人工膝関節置換術 (TKA)							1					1	2
抜釘術						1				1		1	3
人工骨頭置換術		1					1						2
腱鞘切開術											1		1
手根開放術													0
異物摘出術													0
縫合術					1								1
軟部腫瘍摘出術			1									1	2
徒手整復													0
その他						1							1
合計	6	4	6	1	5	4	5	1	5	5	6	8	56

